

「西洋医家名和訳覚帳」

その他について

玉手英典

故青木大輔博士の遺された医史学に関する業績は偉大なものでありますが、研究調査の半ばに倒れられ、未調査未整理の資料も膨大なものであります。私はその資料から表題の人名カード64枚を対象として、若干の整理考察をいたしましたので報告いたします。

「西洋医家名和訳覚帳」に集録されております医家名は主として阿知波五郎氏の「明治初期英米系医学訳書原著とその性格」に拠ったものですがその他著明の洋医家も含まれております。私は更に数名の有名医家名をも之に加えました。

幕末から明治初期に和訳され刊行された書籍は、医学、天文、地理、政治及び兵制等に至るまで多種多様でありま

すが、特に医学書の和訳刊行は、洋医学の急速な伝輸の必要から教育上、また診療上に供すため種々な形で行われました。医学書の和訳に従事した人達にとって、固有名詞の和訳は厄介なものではなかったでしょうか。特に人名地名国名等の和訳には、発音の似た漢字を当てはめている例が多いと思われれます。即ち語呂合せの漢字の選択で和訳しております。例えば

パリ、^{パリ}ロンドン、^{ベルリン}柏林、^{ローマ}羅馬、^{アメリカ}亜米利加、^{イギリス}英吉利斯、^{ドイツ}独逸、^{フランス}仏蘭西、^{オランダ}和蘭

等でありまして、現在でも用いられている漢字があります。また医家名につきましても、此の語呂合せ的手法によるものが沢山あります。

ヒポ^ポクラ^ラテス^{テス}加、^{ヒド}涅児、^{ポン}朋石、^{ポド}桃莫、^{ウイ}烏利出等であります。併し中には、原語の意味や人物の業績や性格を彰わす如き適切な漢字を用いているものもあります。

例えば

^{ワウ}ワウ、^ヒ聖林、^ヒ希臘、^ヒ善那、^ヒ依卜加得、^ヒ米、^ヒ弗

等が挙げられましょう。

洋学を志した先覚者の多くは、幼少時より学問として儒

学を学び、漢字の教養の深い人達でありましたから、洋学著書に記載されている人名または地名国名等の和訳には、実に多様な漢字をあてはめています。儒学と洋学の関連については、いろいろな観点から密接なものがあることは判っておりますが、和訳に従事した人達の洋学の知識と共に、儒学、特に漢字についての教養が、使用した漢字に表現されているように思えます。

単なる語呂合せ的な例でもその使用漢字の選択には自ら一つの傾向があります。また原文の意味や人物評価をも加味した巧な和訳があつたりして、誠に興味深いものがあります。

そして、試みに此等の訳語をアルファベット順に表示してみますと、自づと頻用漢字と覚しきものも指摘できました。例えは

安^{アン} 武^ブ 加^カ 涅^ネ 応^{オウ} 布^フ 扶^フ 利^リ 児^ル 蘭^{ラン} 馬^マ 美^ミ 那^ナ
ト^ト 羅^ラ 斯^ス 丹^{タン} 烏^ウ

等であります。

私は洋学著書の和訳に際して、固有名詞の漢訳の漢字につき整理と考察を行い、その結論の一端を使用漢字の一覧

表と共に供覧に供し、脱満過誤を省みず発表いたすことに致しました。大方の御叱正御指導を仰ぎたいと存じます。

(仙台医学史研究会・天洋堂)